

● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー；DP）

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方】

本課程では、薬学を中核に据えた創薬科学分野における最先端の知識と技術ならびに高い研究能力を修得し、国際的視野で活躍できる人材を育成することを目的としている。

必要な研究指導を受け、講義科目群を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士（創薬科学）を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

- (1) 創薬科学研究者として必要な、高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識、ならびに高い研究能力を身に付けている。
- (2) 国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び専門英語能力を身に付けている。
- (3) 創薬科学研究者として、課題発見から課題解決に向けた創薬科学研究を指導的立場で遂行することができ、高い独創性と新規性を有する最先端の研究活動を通して、創薬科学の発展に貢献できる。

● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー；CP）

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本課程では、薬学を中核に据えた創薬科学分野における最先端の専門知識と高い研究能力を兼ね備えた人材を育成するため、先鋭的なカリキュラム構成を採用している。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

- (1) 研究課題の遂行に必要な高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識を修得する。
- (2) 文献読解能力、説明能力を修得する。また、国際社会で活躍できる専門英語力を修得する。
- (3) 創薬科学研究活動を通して、課題設定能力、課題解決能力、研究推進能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力を修得する。

2. 教育方法

- (1) 研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。また、最先端の知識を学ぶために、課程を構成する全ての教員が、自分の専門領域の「創薬科学専門科目」を開講する。
- (2) 文献読解とその説明・伝達能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、国際社会で活躍するための英語能力を養成するために、英語で開講する科目や「薬科学特別研究」を配置する。
- (3) 自分の研究成果を発表する能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、主任指導教員の指導のもと、創薬科学研究を計画・実行し、論文執筆能力及び発表・討論能力を養成するため「薬科学特別研究」を配置する。

【学修成果の評価】

- (1) 学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。
- (2) ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学

術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。

● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー；AP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野（薬学・医学・保健学関連）に関する最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とします。創薬科学における先進的且つ発展的な教育・研究を通して、豊かな創造力、高い見識、卓越した研究企画能力、強いリーダーシップ、さらに国際的視野で活躍できる能力を備えた、自立した真の研究者を養成します。具体的には、製薬企業等において新薬開発に関する研究や企画立案に携わる者、大学教員、公的機関での研究者、医療・厚生・薬事・環境等の分野での行政担当者などとして活躍する人材を育成します。将来このような職種での活躍を目指す学生であれば、経験した学問分野を問わずに受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

● 想定される就職先

- ・製薬関連企業（開発研究者、学術研究員）
- ・国公立または私立の大学（教員）
- ・公的な研究機関（研究員）
- ・行政機関（行政担当者）

● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー；DP）

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方】

本課程では、薬学を中核に据えた幅広い研究分野を横断する学際的研究分野における最先端の知識と技術ならびに高い研究能力を修得し、国際的視野で活躍できる人材を育成することを目的としている。

必要な研究指導を受け、講義科目群を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士（学術）を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

- （1）分野横断的な学際研究者として必要な、高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識、ならびに高い研究能力を身に付けている。
- （2）国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び専門英語能力を身に付けている。
- （3）最先端の分野横断的な学際研究者として、課題発見から課題解決に向けた分野横断的な学際的研究を指導的立場で遂行することができ、高い独創性と新規性を有する最先端の研究活動を通して、自然科学の発展に貢献できる。

● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー；CP）

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本課程では、薬学を中核に据えた分野横断的な学際的研究分野における最先端の専門知識と高い研究能力を兼ね備えた人材を育成するため、先鋭的なカリキュラム構成を採用している。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

- （1）研究課題の遂行に必要な高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識を修得する。
- （2）文献読解能力、説明能力を修得する。また、国際社会で活躍できる専門英語力を修得する。
- （3）学際研究活動を通して、課題設定能力、課題解決能力、研究推進能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力を修得する。

2. 教育方法

- （1）研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。また、最先端の知識を学ぶために、課程を構成する全ての教員が、自分の専門領域の「創薬科学専門科目」を開講する。
- （2）文献読解とその説明・伝達能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、国際社会で活躍するための英語能力を養成するために、英語で開講する科目や「薬科学特別研究」を配置する。
- （3）自分の研究成果を発表する能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、主任指導教員の指導のもと、分野横断的な学際研究を計画・実行し、論文執筆能力及び発表・討論能力を養成するため「薬科学特別研究」を配置する。

【学修成果の評価】

- （1）学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。

(2) ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。

● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野（薬学・医学・保健学関連）に関する最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とします。創薬科学における先進的且つ発展的な教育・研究を通して、豊かな創造力、高い見識、卓越した研究企画能力、強いリーダーシップ、さらに国際的視野で活躍できる能力を備えた、自立した真の研究者を養成します。具体的には、製薬企業等において新薬開発に関する研究や企画立案に携わる者、大学教員、公的機関での研究者、医療・厚生・薬事・環境等の分野での行政担当者などとして活躍する人材を育成します。将来このような職種での活躍を目指す学生であれば、経験した学問分野を問わずに受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

● 想定される就職先

- ・ 製薬関連企業（開発研究者、学術研究員）
- ・ 国公立または私立の大学（教員）
- ・ 公的な研究機関（研究員）
- ・ 行政機関（行政担当者）